

Hokkaido Nougyou Doboku  
Sokuryou Sekkei Kyoukai Jihou

# 農土測協時報



「衣替え」エゾオコジョ（十勝岳にて）



# 農士測協時報

令和2年1月版

## ■新年ごあいさつ

「新たな年を迎えて」.....	1
(一社)北海道農業土木測量設計協会 会長 神 耐三	

## ■事業報告.....2

「伊能大図フロア展」

## ■現地研修会.....4

「北海道胆振東部地震災害の復旧状況をみて」.....	4
(一社)北海道農業土木測量設計協会 業務推進委員 真田 敏雄 (株)みずほ栄設計	

## ■新社長 紹介.....6

丸菱測量設計(株) (代表取締役 野村 嘉夫)	
小林技術コンサルタント(株) (代表取締役 草野 博幸)	

## ■2019年度農業農村整備事業

「優秀業者へ知事から感謝状」.....	8
---------------------	---

## ■技術者資格取得支援事業 修了者より.....9

(株)細道コンサルタント 平野 智也	
--------------------	--

## ■お知らせ.....10



# 新たな年を迎えて

一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会

会長 神 耐三



あけましておめでとうございます。

会員の皆様には新たな年を迎え、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、当協会の活動、運営に対しご理解、ご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、5月1日から令和の時代がスタートしました。初めて日本の古典「万葉集」典拠となる元号になりました。また、ラグビーワールドカップが日本で開催され、札幌でも2試合行われました。「4年に1度じゃ無い、一生に1度だ」、「ワンチーム」「にわかファン」など多数の流行語を生んで、日本チームは予選を全勝で通過し、ベスト8に初めて進出しました。1ヶ月半の間ラグビー観戦で楽しませていただきました。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。昨年同様、熱い感動を与えてくれるものと思います。

本道農業に目を向けると、TPP11、日欧EPAに加え、日米貿易協定が1月1日から発効することとなっています。チーズなどの牛乳乳製品、牛肉、小麦、豚肉等への影響が見込まれています。北海道農業の競争力向上、生産力、収益力の向上が求められており、生産基盤強化策の検討が進められています。

このような中、農業農村整備事業の昨年の予算は、国費ベースで平成21年度当初予算に対し約70%まで回復してきました。これに加えTPP等対策の補正予算が措置され、予算全体では、平成21年度超える予算が確保されました。北海道農業が北海道の基幹産業として維持発展していくためには安定的な農業生産基盤の整備を進めていかななくてはならないものと考えています。安定した事業のためには、当初予算により一定の業務量の確保が求められます。早期に当初予算が平成21年度並みになるよう引き続き努めていきたいと考えています。会員各社におかれましては、蓄積された技術力の活用、測量設計技術の研鑽に努め、よりよい成果品の提供に向けてご協力をお願い申し上げます。

当協会が社会貢献事業として毎年行っています「伊能大岡フロア展」は、一昨年、胆振東部地震により開催できませんでしたが、昨年は伊能忠敬本道上陸の地であります渡島振興局管内の福島町で開催することができました。関係者の皆様方には心よりお礼申し上げます。今年の開催地はまだ決まっていますが、伊能忠敬（間宮林蔵）が行った当時の測量技術の高さや、200年前の北海道の姿を全道各地域で引き続き紹介して参りたいと考えています。

最後になりますが、当協会の活動に対しまして、ご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、会員各社にとりまして輝かしい1年になりますこと、皆様方が益々ご健勝でご活躍されますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 「伊能大図フロア展」 実施報告

公益事業の一環として、国内最初に科学的手法を以って国の海岸線を実測し、日本地図を作成した伊能忠敬と、その実測図を紹介する「伊能大図フロア展」を9月27日（金）、28日（土）の2日間、道南の福島町総合体育館で開催しました。

平成30年度に伊能忠敬没後200年を記念し福島町で地図展を予定していましたが、「北海道胆振東部地震」の発生により中止としました。その後福島町から、31年度には福島町での開催を検討してもらいたいという要請があり、当協会でも検討し

た結果、福島町で開催することを決定しました。

福島町吉岡は伊能忠敬が1800年（寛政12年）に測量を開始した地であり、平成30年には伊能忠敬没後200年の節目を記念して福島町が「伊能忠敬北海道測量開始記念公園」を整備し、銅像を建てました。フロア展初日の終了後に地図展スタッフ、来場してくれた会員と共に公園を見学してまいりました。整備された公園には広い駐車場が整備され、中央に測量機器を構えた伊能忠敬像が建っていました。全員で記念撮影をし、公園を後にしました。

9月27日（午前8時45分）、鳴海清晴 福島町長、前田勝広 教育長をはじめ、福島町役場幹部職員、校長先生などをご来賓として迎え、神会長の挨拶と、ご来賓を代表して鳴海清春町長から祝辞を頂き幕を開けました。

会場には、子供から大人まで幅広い人に分かりやすい説明が出来るように、各コーナーに説明員を配置し、伊能忠敬の偉業と功績を知ってもらえるよう努めました。

開会式終了と同時に、授業の一環として福島中学校1年生から3年生の67人程が来場したのを皮切りに、福島町内の全小学生、高校生の学生227人と町内の高齢者学級の方々32人が授業として参観しました。

会場では、床に張った大図の上を歩きながら見ることが出来るフロア、日本地図の変遷を分かりやすく並べた蝦夷古地図パネル展、伊能忠敬の生涯を説明するアニメ「人間伊能忠敬」など多くのコーナーを設けて来場者に見て頂きました。

小学生低学年向けには、身近なものの中から長さの単位や測ること、福島町の位置等を把握するなど分かりやすく教えられるよう準備し、中学、高校生には北海道にまつわる地図の変遷、地図の意義、伊能忠敬、松浦武史郎の地図編纂における経緯や功績について学ぶ印象に残る見学会とするために努めました。

また、会場の一角には福島町町史研究会コーナーを設け、パネル展が行われました。コーナーには天体観測に使われた象限儀が置かれ、これはいったい何？と不思議そうに見ている見学者に、町史研究会の中塚徹朗会長（伊能忠敬研究会会員）、

伊能忠敬が作成した  
地図学史上の「金字塔」

# 伊能大図

先人の歩んだ北海道を体感しよう！

フロア展

伊能忠敬  
北海道測量開始記念公園  
【福島町吉岡】

開催日時  
2019年  
9月27日(金)  
10:00~17:00  
9月28日(土)  
10:00~16:00

開催場所  
福島町総合体育館  
住所:〒049-0331 福島町南三丁目25

開催内容

- 伊能大図(北海道版)フロア展
- アニメーションビデオ「人間忠敬」上映
- 蝦夷古地図パネル展
- 福島町史研究会パネル展
- 測量機器展示・体験
- 歩測による距離当て体験

伊能忠敬像

入場無料

協賛  
北海道農業土木測量設計協会 福島町、福島町教育委員会、渡島・檜山地区耕種会  
北海道地理院 北海道地方測量部、「測量の日」北海道推進協議会、  
お問合せ先:011-205-5310 福島町史研究会、南陸測量設計業協会

地図展ポスター



大図見学状況写真

鈴木志穂学芸員が分かりやすく、また楽しく解説していました。

27日は町長、教育長を招き協会員、地図展スタッフで懇親会を行いました。懇親会では2018年「国の重要無形民族文化財」に指定された松前神楽が披露され、一つの演目が終わるたびに「よ～そろ～」と掛け声があがり、参加者一同その迫力と美しさに感心していました。

※「よ～そろ～」とは、松前藩主が神楽を見て「よ

くできてそうろう」とおっしゃったことから「良き候」になり、それが「よ～そろ～」となったそうです。

終わりに、開催地の福島町、福島町教育委員会の皆様にも多大なる支援を頂き、心から感謝を申し上げますとともに、準備、会場説明員、跡片付けと、多忙な時期にもかかわらずお手伝い頂いた会員、関係者に感謝致します。



懇親会で松前神楽の舞を見る



# 令和元年度 現地研修会

(一社)北海道農業土木測量設計協会 業務推進委員 真田 敏雄  
 (株)みずほ栄設計



現地研修会



## 【北海道胆振東部地震災害の復旧状況をみて】

【日 時】 令和元年11月8日（金）11:00～14:00

【場 所】 厚真町総合福祉センター（青年室B）

①研 修「北海道胆振東部地震の経過について」

②現場視察「道営災害復旧事業現場（厚真町）」

【講 師】 胆振総合振興局農村振興課 勝田課長、小川検査専門員

今回の現地研修は、札幌駅に集合してからバスで厚真町まで行き、現地集合の参加者と合流しました。研修については、平成30年9月6日に北海道胆振東部地震が発生し被災しました農地・農業用施設の復旧状況について胆振総合振興局産業振興部農村振興課の勝田課長と小川検査専門員から説明していただきました。

勝田課長からは「農地、農業用施設が埋塞し、多数の尊い人命が亡くなられた災害発生当時の状況から見ると復旧できるのか不安がありました、現時点まで農地復旧は98%に達しており、関係

者の協力により査定及び復旧ができました。」との話しがありました。

小川検査専門員からの詳しい説明では農地・農業用施設の査定件数について、胆振総合振興局関係分が189件でした。今回の災害査定に向けた現地調査では、UAV（ドローン）を活用した被害調査が行われ写真測量から土量算出までを効率的及び省力的に実施することができました。また、被害施設の事前調査にあたっては、農地施設保全整備情報のデータを活用し作業が円滑に進められました。



現地説明



土砂運搬状況



浄水施設の復旧工事状況

北海道胆振東部地震災害では、山腹崩壊により大量の土砂堆積が発生し、道路・河川・治山・農地の連携した復旧工事が必要とされ各部門での分担協力が重要となりました。作業工程としては道路、河川の復旧を先行させ、農地、治山が続くことで進められ、軌道に乗るまでが大変であったとのことでした。

また、地震により発生した大量の倒木等の有効利用についての取組みが図られ、農地に流入した倒木等を撤去し集積土場へ搬出が行われました。

さらに、二級河川日高幌内川上流部では、大規模な地すべりで発生した土砂ダムが河川を堰き止め、延長約1.4kmの天然のダム湖が出現しました。このため、北海道開発局では、土砂ダム上部を掘削し水路工を設置するするとともに、ダム湖を埋め戻し河川を復元することを計画しました。ダム湖の埋め戻しには、土砂量 $V \approx 340 \text{万 m}^3$ が必要とされる一方、農地や道路・河川等に堆積した崩壊土砂の搬出先予定地が遠いなどの課題があること

から、被災地の崩壊・堆積土砂を活用することになりました。ダム湖を埋める災害復旧工事を行うため、農地や道路・河川等に堆積した崩壊土砂の搬出について各事業主体で実施しました。災害復旧においては、所管毎に実施要領等がある中、連携を図ることの重要性を再認識しました。

農地・農業用施設の災害復旧応援については、道職員による技術者派遣が延べ人数で881人に及びました。

現地研修は、日高幌内川の天然ダム湖に係る埋め立て土砂の搬入状況を視察しました。ダンプトラックが数珠つなぎで搬出入しており渋滞気味の様子がうかがえました。また、町の浄水場施設について復旧工事を視察しました。

現地研修を終えて、復旧工事は着実に進められている中、様々な支援とともに被災者の方々が厳しい現状から一刻も早く元の生活に戻られることを祈ります。





## 丸菱測量設計株式会社



代表取締役 野村 嘉夫

### はじめに

この度は、会社及び社長紹介の機会を頂きありがとうございます。私は昭和58年4月学卒と同時に建設業界に入りました。当時、営業職での若年者は殆ど見かけることがなくなると高齢の方々ばかりなのかと感じました。その頃から徐々に次世代の人材が増えて若返りが進んできたように思います。と言いつつ私も若手といえる年齢を通り過ぎましたが…十勝は開拓の歴史であるばんえい競馬、豊かな大地から生まれるスイーツなど誰もが楽しむことができます。平成31年1月に社長に就任致しましたが、食糧基地としての役割や文化を後世に繋いでいく一員でありたいと思います。

### 会社の現況

弊社は、昭和41年10月「株式会社丸菱測量事務所」を設立し平成8年3月に「丸菱測量設計株式会社」と社名を変更し測量、調査、設計等を生業として半世紀を過ぎ創業53年を迎えることができました。先人の方々の大変な努力と苦勞の賜だと思っております。幾多の経済変動や社会の変化を乗り越えてきたことが会社の歴史や社風となり地道に取り組む姿勢は今もなお社員に受け継がれ力となっております。今日まで堅実に歩みを進めてきたことを誇りに信頼される会社であるべくように、また平成14年に取得したISOによる品質マネジメントシステムの継続・改善によって顧客満足と成果品のより一層の向上に努めているところであります。

ご多分にもれず将来的な経営の持続そして技術の継承をいかに行っていくのかなど大きな課題があります。公共投資によって左右される状況はなかなか解決方法が見当たらず、安定的な公共事業の予算を切望しつつも社会的要因も多くを期待してはならないわけです。官庁機関や建設業関連等々の担い手不足である現状をどう乗り越えていくのか先送りできない問題に直面しております。いずれにしても安定した経営があつてこそ人材の確保・育成・継承にも投資と労力と時間を使うことが可能であります。それには企業の体力を維持することが重要であり、当社の在り方を社訓の一節でもある「先達に感謝を忘れず社会貢献」を是とし、大きなグランドデザインから詳細なスキームへの転換期と考えております。働き方改革や新しい技術の導入など様々な手法により次の世代に繋げていかなければなりません。存続しつづける存在であることによって地域に価値を提供し貢献できるのだという思いで役職員一同取り組んでおります。

### おわりに

昨今、心配される地球温暖化や異常気象によるものと思われる農業被害があります。自然のゆらぎの影響でより大きく農作物の種類や生産方法そして土壌の変化が起こるリスクを高めています。基幹産業である農業の発展に「農業農村整備事業」を通じて微力ながら貢献していきたいと思っております。令和という時代が真の「ビューティフルハーモニー」であることを願うとともに北海道、十勝と地域発展のために今後も益々必要とされる企業であるよう努めていく所存でありますので、協会並びに協会員皆様からのご指導ご鞭撻を頂けますようお願い致します。





## 小林技術コンサルタント株式会社



代表取締役 草野 博幸

4月より小林技術コンサルタント(株)の代表取締役に就任致しました草野です。今回、新社長紹介という機会を頂きましたので、簡単ではありますが自己紹介を兼ねて挨拶をさせていただきます。まず最初に、まさか私が弊社の代表取締役になるとは夢にも思っておりませんでした。私はこの4月まで建設会社で18年働いていました。その前は音楽業界でレコード会社等で演歌やカラオケ制作のディレクターの仕事をしていました。少し話をさせて頂くと、高校卒業後、エレクトーンプレイヤーを目指し東京の音楽学校に進学、しかしプロの世界はそんなに甘くはなく断念、その後音楽業界に就職。30代半ばで地元根室に戻り、まったく知識、経験がない状態で建設会社に入社しました。今から思うと入社3年間程、現場での仕事は毎日が本当に大変だった事を思い出します。この度は建設業からコンサル業への転職となりました。色々な状況、流れの中で代表をやってくれないかと言う話があり、その時には私自身、異業種からの転職がどんなに大変か経験していた事もあり、本当に驚いたのと同時に自分に代表なんか務まるのか悩みましたが、今までもそうであった様に一度しかない人生、何事にもチャレンジ、為せば成るをモットーに自分自身、身の引き締まる思いで引き受ける事としました。以前より小林技術コンサルタントとは仕事でのご縁もあり、社員の皆さんには色々な事を教わり、助けてもらいながら日々新鮮な気持ちで頑張っている所です。今までの色々な経験や知識を強みに、一生懸命頑張っていく所存であります。

弊社の紹介も少しさせていただきますと、創業54年、根室本社、釧路支店含め職員23名、最東端の町根室市に本社を構えております。

創業以来、長い間この地域の社会基盤整備に関わってきました。また誠心誠意・責任観念をもってお客様から安心と信頼を得られる企業となるべく努力して参りました。今年も台風、大雨など各地で甚大な災害が起こっております。インフラ整備も含め我々の果たす役割は今以上に重要になってくる事は間違いありません。弊社においても技術の向上を目指すのは勿論ですが、この道東根室を拠点に市民の生活を守り、また地域の発展のためにも職員一丸となり役立って行きたいと強く願っております。

最後になりますが、今後とも、協会員の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2019年度農業農村整備事業  
優秀業者へ知事から感謝状



優秀業者へ知事から感謝状

道農政部は、今年度優秀業者25社を選定し、11月15日ホテルポールスター札幌において知事感謝状贈呈式が行われました。

委託部門からは、(株)ルーラルエンジニア(深川市)、(株)三幸ランドプランニング(旭川市)、(株)ドボク管理(北見市)、(株)中神土木設計事務所(北見市)、平田技術コンサルタント(株)(帯広市)、の5社が選ばれ、小田原輝和部長から受賞各社の代表者に感謝状が贈呈されました。

感謝状を手渡した小田原部長は、農業農村整備事業について「営農作業との調整などが必要となり、通常の現場対応に加え、豊富な知識と経験が求められる」と述べ、農業土木に関する高い技術力のほか、細やかで創意工夫ある対応に敬意を表しました。

また、近年自然災害が頻発していることに関し「迅速な復旧・復興、防災・減災、社会資本の維持管理などの重要性が増している。地域の守り手として皆さんの役割が期待されている」と、引き続きの協力を求めました。



(株)ルーラルエンジニア



(株)三幸ランドプランニング



(株)ドボク管理



(株)中神土木設計事務所



平田技術コンサルタント(株)



## 「資格取得から現在の仕事について」

株式会社 細道コンサルタント 平野 智也

私は高校卒業後すぐに現在の会社を通じて、平成29年度に企業委託生として札幌工科専門学校の測量情報科に入学しました。毎年測量情報科は少ないらしいのですが、私の時は同い年から30代まで幅広く、例年の倍の19人のクラスでした。そして私は知らない人とコミュニケーションを取ることが苦手なため心配していましたが、入学してからすぐに行われたクラス会で、皆さんが話しかけてくださったおかげですぐに打ち解けることができました。

学校の授業では測量を基礎中の基礎から教えていただき、何1つ測量について知らなかった私もしっかり理解することができました。また、わからないことがあったときには同じクラスの人が優しく教えてくれ、より理解することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。そして実習ではTSを使った基準点測量や多角測量、近くのもエレ沼公園での水準測量、最新技術のGPSを使ったGNSS測量、さらに冬には山の中での地形測量など普段とは違う環境の中で測量作業を体験できました。また一番の課題であった測量士補試験合格も、試験の1か月前ぐらいから授業の中で過去問をひたすら解いたりして、計算問題なども自信がつくようになりました。そのおかげで本番では1・2問くらいしかミスがなく無事合格できたので嬉しかったです。それから卒業まで少し時間があつたので、9月くらいから少しずつ勉強していた2級土木施工管理技士の勉強も本格的に始めました。毎日家に帰ってきてから最低2時間以上は勉強するようにし、休日もずっと勉強していました。その甲斐あって無事、学科試験に合格することができました。ですがこの試験はまだ実務経験を積んでからもう1回試験があるので今度はそれに合格できるよう頑張りたいです。

最後に私が今やっている仕事は、電子平板というタブレットPCみたいなものを使用し圃場（牧場や田んぼ）の平面を測る仕事をしています。器械を立てる基準点はVRSというGNSS技術を使って基準点に座標付けをしています。平面を測り終わったらその圃場の工種に応じて表土厚調査や縦横断などを行い、設計をしていく感じです。私はまだ設計のサポート的な立場で設計の仕方や用語・ソフトの使い方などを日々勉強中です。もし来年も同じような仕事がありましたら、今年よりもできることを増やして1人前の測量士として活躍できる日が来るように頑張っていきたいです。



## 協会行事予定

令和元年度		
1月	1月10日（金）	第4回理事会（ポールスター札幌）
	1月中旬～	各地域懇談会
2月	2月下旬	農業土木技術者研修会
3月	3月2日（月）	技術者資格取得支援事業 令和2年度募集開始
	3月中旬	第3回業務推進委員会
令和2年度		
4月	4月上旬	定期監査
	4月15日（水）	第1回理事会（ポールスター札幌）
5月	5月29日（金）	令和2年度通常総会（ポールスター札幌）
9月	9月下旬	伊能大岡フロア展（場所：未定）
10月	10月上旬	農業農村整備パネル展（場所：未定）

お知らせ

## 会員の人事動静

### ・(株)ズコーシャ

令和元年12月 代表取締役会長 関本 裕至  
代表取締役社長 高橋 宣之

### ・サン技研(株)

令和元年12月 代表取締役 阿部 元一

## おくやみ

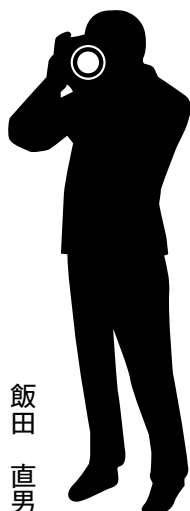
### ・藤井測量設計(株)

代表取締役会長 藤井 誠 様（77歳）  
没 令和元年9月8日  
ご冥福をお祈りいたします

### ・ダイシン設計(株)

代表取締役会長 大久保 晃二 様（91歳）  
没 令和元年10月23日  
ご冥福をお祈りいたします

# 撮影秘話



飯田直男



大雪山などの高い山では10月中旬に初冠雪を迎えると、そこに住む動物たちにとっては、本格的な冬が来る前に冬支度を始めます。ナキウサギなどは少しばかり濃い色の冬毛になるのに対して、エゾオコジョは尻尾の先端を残して、全身真っ白く変身します。10月の下旬にまだ茶色の毛をしていたのに、次の週に山に行ってみると、ほぼ白くなっていて、1週間から10日間ほどで、完全に冬毛になります。変身の速さにびっくりしてしまいます。

しかし、この頃になると撮影地

点の岩場も雪に覆われることが多く、平らに積もった雪の下は穴ぼこだらけで、穴に足を取られたりして悪戦苦闘をしながらの撮影となります。今回は、11月中旬に30cmほど雪が積もった時に撮影したもので、この日をもって撮影は終了としました。

アイヌの人たちの間では、「冬毛の白いオコジョを見た娘は、将来幸せになれる」と言う、言い伝えがあるように聞いています。

この写真をご覧ください方々も、幸せになれるように。

## 農土測協時報

令和2年1月版



発行

一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会  
〒060-0002  
札幌市中央区北2条西3丁目1-21 札幌北2条ビル5階  
TEL : 011-205-5310 FAX : 011-222-3277  
E-mail ndsk@sage.ocn.ne.jp  
ホームページ <http://hokkaido-ndsk.or.jp/>

印刷

東洋印刷株式会社



北海道の価値を見つめ直し、  
これからの北海道を考える日

# 7.17 道みんなの日

7月17日は北海道みんなの日

「道みんなの日」には、道内各地の道立施設等において、常設展示の観覧料や入場料などが無料や割引になるほか、各種記念イベントなども開催されます。ぜひご利用ください。

※7月17日のほか、7月18日も同様です。詳しくは各施設HPをご覧ください。

北海道みんなの日

検索

